

VACUUM PACKAGING MACHINE AZシリーズ

自動真空包装機 AZ-400WS(ダブルシール)

左右2列のシール部があるので、小さい袋を複数同時パックする作業に便利です。

中ロットの真空中に最適

据え置き型

AZ-400WS

定価 398,000円

特 徴

- 2列のシール部により、作業性アップ。
- たまに大きい袋をパックするときも便利。
- 一日200～500パックに最適。
- 操作もカンタンでどなたでも使えますので、初めて使う方にもお勧めです。



自動真空包装机 AZ-400WS(ダブルシール)

ASKWORKS



シールユニットが2列あります。



操作パネル部

(さまざまな設定、調整が可能です。)

ジャンプボタン (パスボタン) セットボタン シール温度設定ボタン 真空計 (MPA表示)

型 番	AZ-400WS
消費電力	200V 50/60HZ ポンプ 900W ヒーター 2400W
外形寸法	W480 x D560 x H470 mm
チャンバー内寸法	W420×D440×H75+60 (計 135) mm
シール長	幅 8mm X 長さ 410mm が2列 (左右)
重 さ	65Kg
空気排出能力	20 ^l m/h (99.9%到達まで約 23 秒)
真空能力	<1.066KPA



株式会社アスクワークス

TEL:03-5610-3666

<http://www.askworks.com/>

販売代理店名

わかりやすい真空包装機の使い方 1

AZ シリーズ

製品出荷時に基本的な設定をしております。まずは機械を使ってみてください。



- 1、背面のメイン電源を入れます。
(上に上げる。)



- 2、右側のロックを外し、ふたを開けます。



- 3、正面の電源ボタンの ON を押します。



注意：液晶表示
カウントが0に
なるまでやら
ないこと。(0ま
でやると、ヒー
ター一部から煙
がでます。)

- 4、一日の初めに使い始めるとき、ふたをゆっくり下げてモーターが回ったところで止め、(完全にふたを閉めないで) 10 秒程度モーターを回す。ふたを上げ5秒休む。この暖機運転の作業を行ってから使い始めてください。
(気温が5度以下の場合、ポンプ内のオイルをよりほぐすため、2セット行ってください。)



袋の口がはみ出さないように注意する。

- 5、袋に入れたものを中に入れ、押さえのバーをかぶせます。このとき袋の口がチャンバー内に入るように入れてください。



- 6、両手で体重を乗せるようにふたを閉め、2、3秒押さえつけます。すると、自動的に空気を抜いていきます。



- 7、タイマーが0になり、密封シールを自動的にしてふたが開けば完成です。



- 8、さまざまな食品などに対応してます。いろいろ使ってみてください。

- 9、45分ぐらい連続で使用した場合、2時間ぐらいポンプを休ませてください。(ポンプのオーバーヒートを防ぐため)

わかりやすい真空包装機の使い方 2

AZ- シリーズ
200V 用

用途に応じてさまざまな設定ができます。(ふたを開けてください。)



下側のセットボタンを押す。

- 1 回押す→排出時間の調整 (空気の排出のランプ)
- 2 回押す→シール時間の調整 (密封シールのランプ)
- 3 回押す→冷却時間の調整 (冷却のランプ)
- 4 回押す→END 表示 (ランプが消え Ed 表示)
(または — 表示)



1、排出時間の調整 (空気を抜く時間)

空気の排出のランプがついているとき、▲▼で調整できます。

基本設定の目安 AZ-350J=24 秒、AZ-390J,400WS=24 秒、
AZ-390H=32 秒、AZ-500WS=35 秒～ 40 秒

調整したら、セットボタンを 3 回押して ED を表示させます。



2、シール時間の調整

袋の厚み、素材 (ナイロン、アルミパックなど) によって微調整します。

密封シールのランプがついているとき、▲▼で調整します。

通常 1.4 から 1.6 でちょうどいいです。

調整したらセットボタンを 2 回押して ED を表示させます。

**注意：極端に 3.0 以上にしないで下さい。すぐにヒーター線が切れて
しまいます。**



3、冷却時間の調整

袋の厚み、素材によって微調整します。

冷却のランプがついているとき、▲▼で調整します。

通常は 2.0 でちょうどいいです。

調整したらセットボタンを 1 回押して ED を表示させます。



4、シール温度の調整

袋の厚み、素材によってシール温度を調整します。

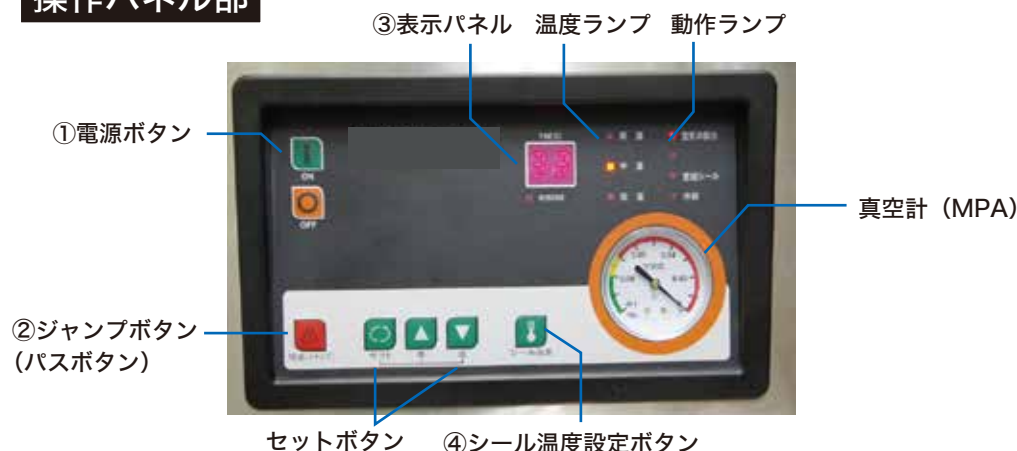
1 回押すたびに移動します。(ランプが付いていないときは、シール
機能が OFF になり、シールしません。)

通常は 500WS,400WS= 真ん中の中温、350,390=一番下の低温
でちょうどいいです。

**注意：高温はなるべく使わないこと。使っても、シール時間を
2.5 以上上げないでください。**

その他、覚えておくと便利な使い方、注意点など

操作パネル部



① 電源ボタン

ON を押すと使えます。必ずふたを開けてから ON にしてください。

長時間使わないときは、後ろのメイン電源をお切りください。

また、真空をかけて、やり直したいとき、(ストップしたいとき) OFF を押して、すぐ ON を押すと、シールせず、やり直すことができます。

② ジャンプボタン

真空作業の途中(空気の排出の途中)でシール作業に強制的に移行します。

液体のふきこぼれ防止や、1つだけ真空せずシールのみしたい、といった場合に便利です。

シールのみしたい場合、最低でも真空計が 0.06 以上のところでジャンプしないと、きれいにシールができません。

③ 表示パネル

□□のマークのまま、放置しないでください。(真空が終わってもふたを閉じたままの状態) 電磁弁の部品が壊れてしまいます。

ed という表示は、END (エンド) つまり作業が終わりましたというサインであり、エラーコードではありませんのでご安心ください。 _ _ の表示も同じです。

④ シール温度設定ボタン

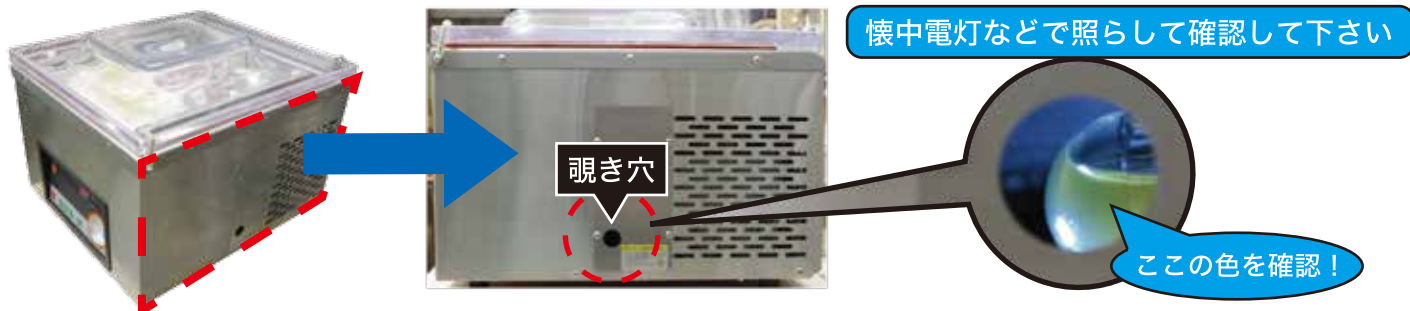
暖機運転するとき、カウントダウンが 0 になると、電熱線に電気が流れ、発熱します。

この際、ふたが開いた状態、つまり酸素がある状態だと、煙が出たり、発火する可能性があるため、0 までやるならシール温度ボタンを何回か押して、ランプがどこにもついていない状態(切)にして、暖機運転をしてください。

200V用真空ポンプオイルの交換 (二人で作業する事を推奨します)

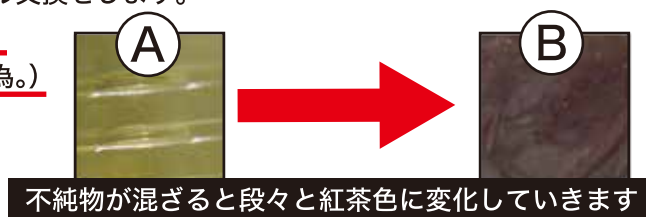
①本体右側の覗き窓から、真空ポンプオイルの色を見て汚れ具合を確認します。

(※汚れたまま使い続けると、故障の原因となります。)

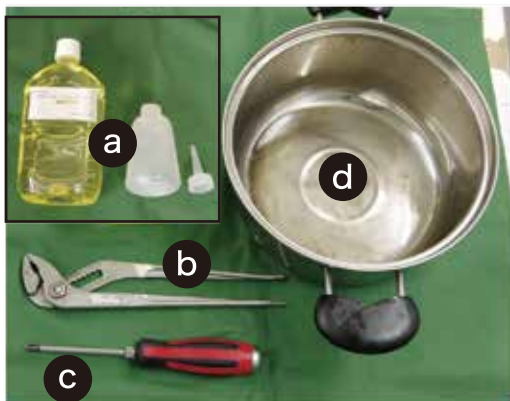


②真空ポンプオイルの色が (B) 色 (紅茶色) になったら、オイル交換をします。

(※弊社推奨の真空ポンプオイルを使用して下さい。理由：固さなどが合わないと、真空率が悪くなったり耐久性に影響が出る為。)



■オイル交換前に準備する道具■



- a : 新しい 200V 用真空ポンプオイルと、オイル差し
- b : ウォーターポンププライヤー
- c : プラスドライバー
- d : 容器 (古いオイルを入れるのに使います。写真では鍋を使っていますが、ボウルや袋でもOKです)

③本体右側のパネルのネジを、プラスドライバーで外します。

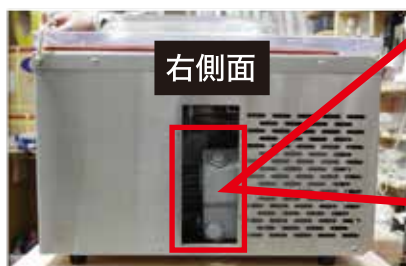


④本体を台などに乗せ、右側面を 7 cm ほど出し少し角度を付けます。(オイル排出しやすくする為です。)

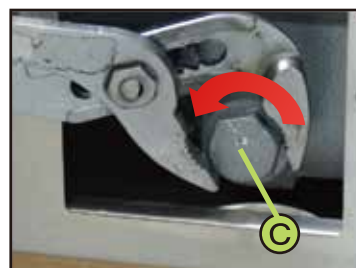


200V用真空ポンプオイルの交換 (二人で作業する事を推奨します)

⑤ ③をウォーターポンププライヤーで緩めます。



D オイル注入ポート
E オイル量の確認窓
C オイル排出ポート



⑥ 容器を下に置き、③を取ってオイルを排出します。



⑦ 3分程待ちオイルが抜けたら、③ボルトを戻して下さい。
(※無理に全てのオイルを排出しようと、
本体を傾け過ぎるのは危険ですので、ご注意下さい。)



⑧ 本体の脚を台上に戻し、水平にします。



⑨ ④の注入ポートをウォーターポンププライヤーで外します。



⑩ 「オイル差し」にオイルを入れます。 ⑪ 「オイル差し」で④穴にオイルを注入します。注ぐ量は、⑤の確認窓を目安して下さい。(※機械の製造年数により、注ぐ量が変わります)



⑫ ④ボルトを戻し、本体右側のパネルをネジ留めし、オイル交換の作業完了です。

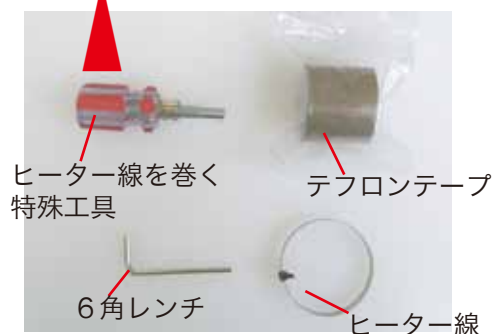
※2015年製以前の機械で、【6割】のオイル交換をして真空率が悪くなった場合は、
オイルが少ない可能性があります。その際は、オイル量を【8割】にして下さい。

ヒーター線の交換

(シールが付かない、密封ができない、発熱しない場合)



棒部分を引っ張ると、ヒーター線を巻く工具と、プラスドライバーにもなります。



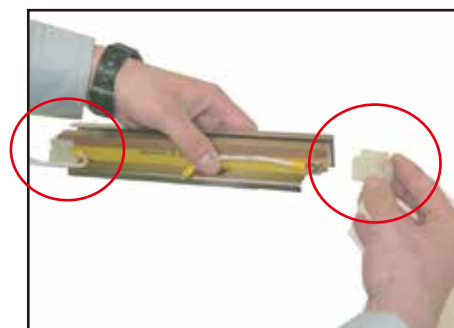
①付属品から、写真の部品、道具を取り出します。さらに、ご自身でニッパーと、カッターをご用意ください。



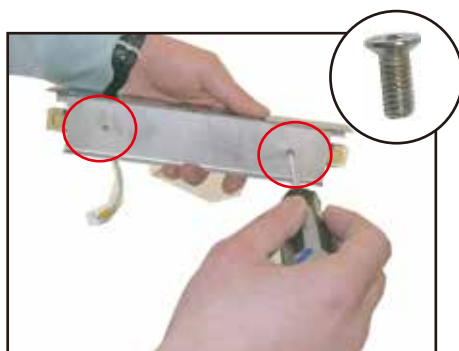
②両サイドの導線を本体に止めてあるプラスのネジを外します。(2箇所)



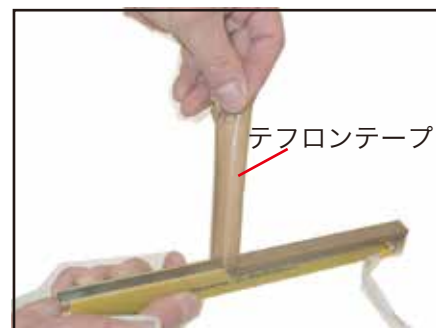
③シールユニットの袋を押さえる棒を外すため、両側のプラスのネジを外します。(2箇所)



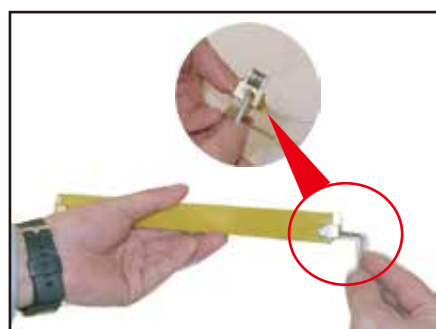
④両サイドのプラスチックのパーツを引っっこ抜きます。(2箇所)



⑤シールユニットの裏側のネジを外します。(2箇所)



⑥テフロンテープ (茶色いテープ) をはがします。



⑦写真の位置の六角穴付きボルトを緩めます。(左右2箇所)すると、ヒーター線が外れます。

はみ出しを0～2ミリにする(重要)



⑧今度は新しいヒーター線を取り付けます。このとき、はみ出し部分を0～2ミリにしてください。

× 悪い例

はみ出しが多すぎです。



⑨反対側のヒーター線を金具に通し、手である程度、引っ張ります。



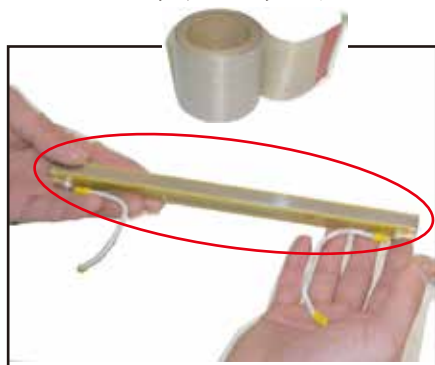
⑩はみ出したヒーター線を特殊工具でしっかりと張ります。もう片手で6角ネジを締めて、固定します。



⑪余った部分をニッパーでカットします。このときもぎりぎり短くカットしてください。黄色の土台より、はみ出したらアウトです。(重要)

▶
裏面へ

テフロンテープ



⑫この上に、テフロンテープを貼ります。はさみで切って貼ってください。



⑬金具部分にかかった余分なテープを形に合わせてカットすると、はがれにくいです。



⑭あとは逆の手順で各部品を取り付ければ完成です。

本体に取り付ける前に今一度チェックしてください。

○ 良い例



ヒーター線が黄色の土台より、はみ出していない。

× 悪い例



ヒーター線が黄色の土台より、はみ出している。

ヒーター線が土台よりはみ出していると、チャンバー室に接触してしまい、漏電となって発熱がうまくできません。また故障につながるので、お気をつけください。

ヒーター線を交換しても直らない場合、シールユニットの両サイドの2本の導線が劣化している可能性が高いです。



劣化した導線



断線している、または断線しそうだ。
(端子部分を手で引っ張ってみて、ぽろっと取れるようだとアウトです。)

パッキンの交換

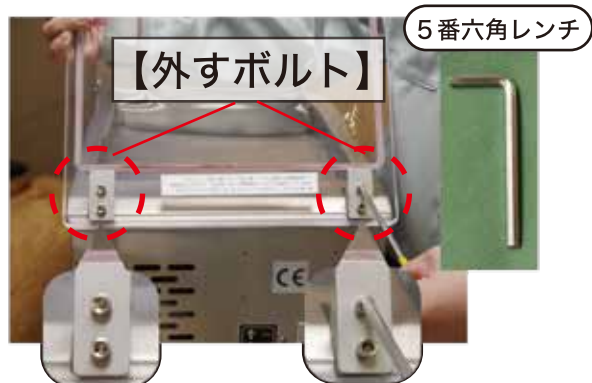
後方



①パッキンの【裂け】や【欠け】を確認したら、パッキン交換をします。



②本体後方から、ふたの根元ボルト 4 つを 5 番六角レンチで外します。(根元に負荷が掛かる為、ふたを開けたままの状態を外します。2 人で作業すると、やりやすいです)



【重要】

③ふたと根元の間に高さ調整用の【ステンレス板】が入っていた場合は、入っていた所が分かるようにメモして下さい。



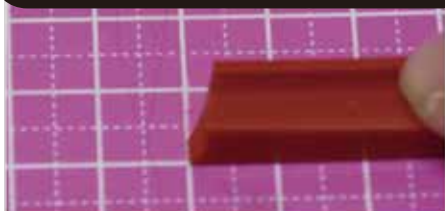
※写真では、右側に 2 枚のステンレス板が入ってました。取り付ける際に分かるように覚え書きして下さい。

④ふたをひっくり返して置き、古いパッキンを引っ張って外します。
【スキマ調整用の材料】や【白い修正剤】などが入っている場合は、そのままにしておいて下さい。



⑤新しいパッキンの先を片側だけ (もう片方は仕上げの際にカットします)、カッターで【垂直】にカットします。

× デコボコしていて失敗です。



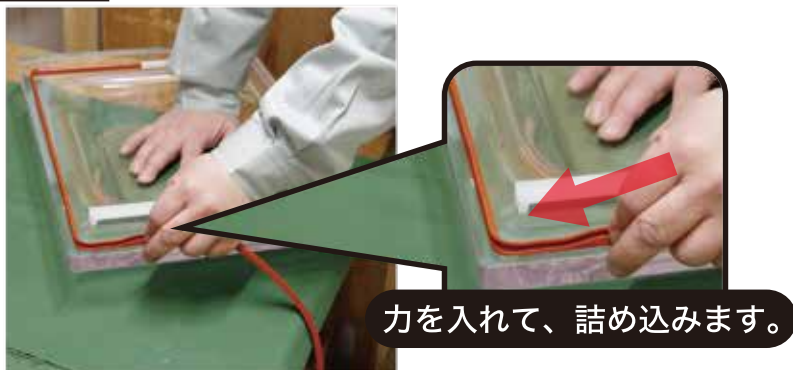
○ 真っ直ぐにカットされています。



パッキンの交換

⑥新しいパッキンを溝に入れます。伸ばしながら入れるのではなく、詰め込みながら入ると良いです。パッキンの向きはビラビラが外にくるようになります。

重要！



※ビラビラは外向きです。



⑦最後の繋ぎ目は、3ミリほど長めに印を付けてカットし、溝に入れます。
(斜めにカットしたり短くカットすると、そこから空気がもれてしまいます。)



※悪い例



※良い例



ここから空気がもれてくるので、完全真空できなくなります。

⑧カットに失敗した時は、5センチほど切り、余っているパッキンで【繋ぎ】を作り、溝に入れます。(垂直にカットして下さい。)



⑨ひっくり返したふたを元に戻し、②で外した根元との取り付け作業をおこないます。
(あらかじめ高さ調整用のステンレス板があった際は、メモしていた所へ忘れずに取り付けて下さい。)



パッキンの交換

■パッキンの交換後に完全真空がされない場合、以下の箇所を確認して下さい■

【症状】パッキンの繋ぎ目から、空気もれている。

【対処】繋ぎ目を垂直にカットする。

※悪い例

※良い例

【原因】



ここから空気がもれてくるので、完全真空できなくなります。

× デコボコしていて失敗です。

○ 真っ直ぐにカットされています。



【対処】

カットの仕方は、「パッキンの交換・説明書その 2」の⑦と⑧をご参照下さい。

【追記】

交換後 1～2 ヶ月経ってパッキンのゴムが戻ろうとする性質で、繋ぎ目にスキマが生じた際は、「説明書その 2」⑧の【繋ぎ】を作成して下さい。
※その為に余ったパッキン、あるいは古いパッキンを少し取り置き下さい。

少し長めに印しを付けて、【繋ぎ】をカットします。

【繋ぎ】を詰め込みます。



【症状】・パッキンと本体の接触面にスキマがあり、空気がもれている。

- ・フタを押さえる場所によって、真空できたりできなかったりする。
- ・フタが固い。(思い切り体重を乗せて閉めないでと作動しない)

【対処】空気がもれている所に、「スキマ調整用の材料」を入れる。

■「空気もれ箇所」の確認方法■



電源ON後、()マークの所を一箇所だけ手で押さえ、フタがぴたっと吸い付き、真空を開始すれば正常です。(一箇所ずつ試していきます。)

吸い付かない場合は、押さえた箇所以外にスキマが生じていないか確認して下さい。

その 4 へ続きます。

【原因】

このスキマが原因です。



・液体を絶対こぼさないこと！ もしこぼしてしまったら、すぐに拭きとること！ (必ずシールユニットの下と、)

パッキンの交換

■スキマ調整用の材料を用意します■

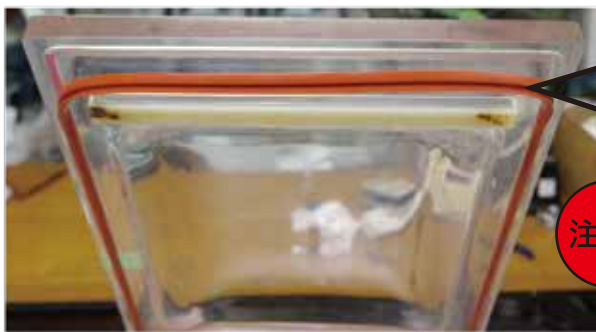
厚紙などを 5 ミリ幅に切り、透明のフタの溝とゴムパッキンの間に
入れる事でゴムパッキンを盛り上げ、スキマを小さくします。



- ・材料はティッシュペーパー箱の厚紙などで大丈夫です。
- ・スキマが大きい場合は、さらに厚紙をのりで重ねて厚い調整材にして下さい。



■ゴムパッキンをダメな箇所のみ、めくります。※絶対にパッキン全部を外さないで下さい■



注意！ 調整材を入れる箇所のみ、めくって下さい。

■調整材を溝に入れます■



注意！ 再度長さが合っているか確認してから、調整材を入れて下さい。



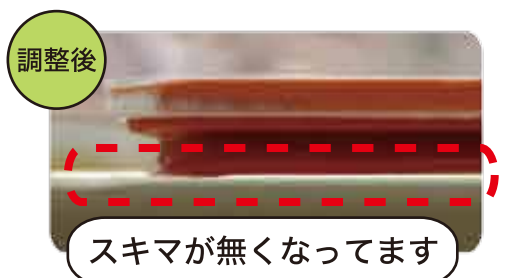
スキマに応じた厚さの調整材を入れます。
位置が安定しない場合は、のりなどで
固定してから、入れて下さい。

注意！ ※のりを塗る際、あまりはみ出ないように塗り、
溝に固定して下さい。のりが多量にありますと、
メンテナンス時の妨げになりますので、
ご使用は適量でお願い致します。

■パッキンを戻します■



白く塗られている
部分がスキマです



フィルターを交換する（2019 年式～） （オイル漏れがもれてきてしまったら）

200Vポンプ用
（2020/9/15 改定）

機械から、オイルが漏れてきてしまったら、フィルターが劣化している可能性があります。
その場合、フィルターを交換し、フィルターにたまったオイルを取り除く必要があります。

